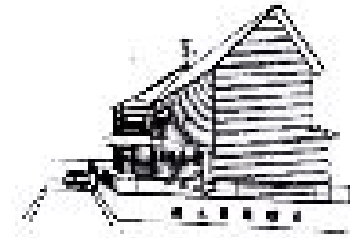


## <今朝の聖書から>

今朝の聖書箇所もイエス様の言葉で書かれています。1節の“さばくな”ですが、ギリシャ語ではMh. krinete(です。たいがいの英文訳聖書ではDo not judge!になっています。英語にはcriticizeという言葉がありますが、ジャッジになっています。批評する、論評するというと、これは気をつけなければならぬのですが、“これは良い”という時にも“批判して分かったこと”として使います。たまに、悪く言うことだと思ってしまう時がありますが、これは間違いですし、批判的(批評して判断する)精神は、聖書は、各所で大切なこととして教えています。ここでいう“さばく”は“どちらが悪いかわち負けをはっきりつける”という意味の、レフリーの仕事のようなことを意味しているのです。そして私たちも“あれは(あの人の行いは)良くない”というのを好みます。私の方が勝っている”ということをも百万回思いめぐらしてみても、不健康な自分に気付くだけで、救いと益には関係ないということが語られています。これが当時のユダヤ教信仰の中心・律法主義だったのです。このような信仰の指導者たちに“偽善者”という言葉が用いられます(5節)。日常使われる言葉になっている豚に真珠という言葉が次にでてきます(6節)。“私たちの救いはいまや、訪れた”と福音を語っても、その福音を、“祭儀が正しく守られていないから駄目だ”と言って踏みつけて無視するのが、パリサイ派と聖書が伝える人々だったのです。門をたたく者は開けてもらえるのです。このような、本来は正しい律法という言葉も、心の内でゆがめられている時でも、“パンの代わりに石を愛する者に与える者はいない(9節)”とイエスは明らかにされます。神様が私たちに与えてくださった本来の思いを示して下さるのです。どんなにかすかなものになってしまっても、神様の思いはあなた方の内に力強く生きている、と勇気を私たちに与えられます(11節)。“何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりにせよ。これが律法であり預言者である。”と新鮮な聖書の理解を教えられます。これは“さばくな”という言葉の反対です。実に新鮮な聖書理解です。更に努力すべきは、すべての中から神様の道を見出すことだとおっしゃいます。解決すべき問題を先送りして、当面は乗り切ってきてても、課題はますます困難になるだけですよ、と語られます。せつかく主の道に気がついた人に、“この広い道が広く楽だ”と災いは誘いの言葉をかけてくるのです。

# 週報

2009年 7月 12日



伝えよう 救い主を  
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

## 清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	<a href="http://kusanagi.church.jp/">http://kusanagi.church.jp/</a>	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail [grace@big.jp](mailto:grace@big.jp)